

日本型直接支払を実施している地方公共団体及び 農業者団体等に対するヒアリングについて

令和 2 年 7 月
農林水産省

複数の支払制度を組み合わせて活用している事例

【福島県二本松市】

布沢の環境を守る会（布沢集落） 代表 菅野 正寿 氏

二本松市産業部農村振興課農政係主査 丹野 徳幸 氏

二本松市東和支所産業建設課農政係主事 三瓶 大輔 氏

子どもたちに誇れる地域をデザインしていく



布沢集落・多面的機能の取り組み
23戸(80人) 約14ha

中山間地域等直接支払事業により集落営農の力がつく (2005年～2019年)

- 共同での寄せ伐り作業



- 景観作物(水仙・菜の花)



農道・用水路の維持管理がすすむ

- 農道整備、砂利敷き
- 農道補修整備



布沢機械組合と連携して生産活動

- 水田の畔塗り作業
- 共同コンバインでの稲刈り



中山間地域等直接支払事業があったから 原発事故以降も協働の力で乗り越える

- ゼオライト散布 2012年
(ブロードキャスター購入)
- 10a当り150^キ□のゼオライト
- (放射能低減対策)





2013年用水路除染（環境省助成）







2014年電気柵設置(延長12km)イノシシ対策





地域コミュニティと都市との交流 —多面的機能支払事業—2016年～

- 農業体験から里山の価値
- 学生の体験で楽しい交流



ため池草刈・用水路点検補修



自給味噌づくりの共同作業

—耕作放棄地に大豆栽培—



人事院新人研修受け入れ(6月)

(農水省・文科省・環境省・財務省など)



天女舞うホタルの里・野良アートづくり



都市との交流から野良アート —山の神・田の神・水の神に感謝—

- 楽しい粘土づくり
- 集落を見守る野良アート



山の神・田の神・水の神に感謝



田んぼビオトープを整備する



田んぼビオトープと生きものの観察会 —東和小4年生・40人—

- 「カエルつかまえた！」





夏の生き物観察会（自然保護協会・宗像亮さん）





田んぼビオトープの多様な生き物

タニシ・ドジョウ・ギンヤンマのヤゴ・オケラ・ゲンゴロウ・カワセミもやってくる



タニシ・ドジョウ・オケラ・ゲンゴロウ・ギンヤンマのヤゴ ヘイケホタル・赤とんぼ10種類



ヘイケボタルが乱舞

—小学生、お母さんが感動—



台風19号の被害から集落ぐるみで復旧



地域交流をすすめるために

- 天女舞うホタルの里看板
- 子守地蔵尊・地域交流施設



美しい野の里づくりと地域コミュニティ —多面的機能支払事業のさらなる活用—

- ・農道整備、用水路補修が毎年できる。
- ・共同の草刈作業で集落景観が良くなる。
- ・農業体験に来た首都圏の学生、企業の皆さんにホタル観察会のきっかけをつくっていただいた。
- ・自然保護協会の方や東和小学校との連携でホタル観察や生き物調査ができた。
- ・田んぼビオトープを整備したことによって多様な生き物が生息するようになった。さらに集落の子どもたちや地元の小学生もかわるようになった。
- ・集落の方も生き物への意識が高まり、環境保全型支払事業にも4名が参加するようになった。
- ・自給味噌づくりの共同作業や景観作物の取り組みで婦人の参加が高まった。
- ・高齢化で耕作できなくなっている田畑を担い手だけではなく、機械組合などの営農組織が必要になってくる。
- ・都市の消費者や学生が「マイ田んぼ」として活用するモデルをすすめたい。

都市住民の「マイ田んぼ」 —交流体験から耕す市民へ—



事務支援体制の構築による事務負担軽減の事例

【新潟県見附市】

（一社）農村振興センターみつけ 事務局長 椿 一雅 氏

見附市農林創生課農政企画係副主幹兼係長 稲田 忠義 氏

1 1市1組織で日本型直接支払3支払を運営する事務局の取組

【見附市広域協定運営委員会】、（一社）農村振興センターみつけ（新潟県見附市）

- 平成24年度の農地・水保管理支払のスタートに合わせて、個別集落での取組みに対する課題等に対応するため、見附市内の30集落が広域協定を締結し『見附市広域協定』を設置。平成26年度からの「多面的機能支払交付金」では新たな集落を取込み、見附市内の全66集落（現在は集落の合併等により65地区）、管内4土地改良区、1地域団体が加盟し協定を締結。
- 平成28年度には、中山間地域直接支払と環境保全型農業直接支払に取組む集落・農業者が事務の簡素化や事業上の連携を図るために、見附市広域協定に加盟。3支払を実施する組織となった。
- 平成29年度には、組織のさらなる継続・発展のため、当時の協定役員を中心に『一般社団法人農村振興センターみつけ』を設立。同団体に広域協定の事務局機能を委託することで、事務の効率化と更なる地域活性化の取組を推進。

【組織概要】(R1)

1. 多面的機能支払 面積 2467.74ha
交付額 約142.7百万円
2. 中山間地域直払 面積 13.5ha
交付額 14.1百万円
3. 環境保全型農業直払 面積 39.2ha
交付金 約 2.2百万円

※見附市の報告値

活動開始前の状況や課題

- 平成19年度からの農地・水・環境保全向上対策の取組時は、事業を実施するための事務負担等の懸念から、見附市全体でわずか3集落の取組であった。その後、農業・農村を取り巻く環境が一段と厳しくなってきたこと、見附市主導による広域化を図ったことで、現在、市内全集落が参加するに至っている。
- 平成28年度には、見附市がそれまで実施していなかった中山間地域直接支払に取組むことになり、既に見附市広域協定は市内全集落が加盟していたことから、対象となる地域の集落は重複しているため、集落負担の軽減を図ることを目的として見附市広域協定一本化。
- 法制化に伴い、団体での取組が必要となった環境保全型農業も同様に見附市広域協定一本化。

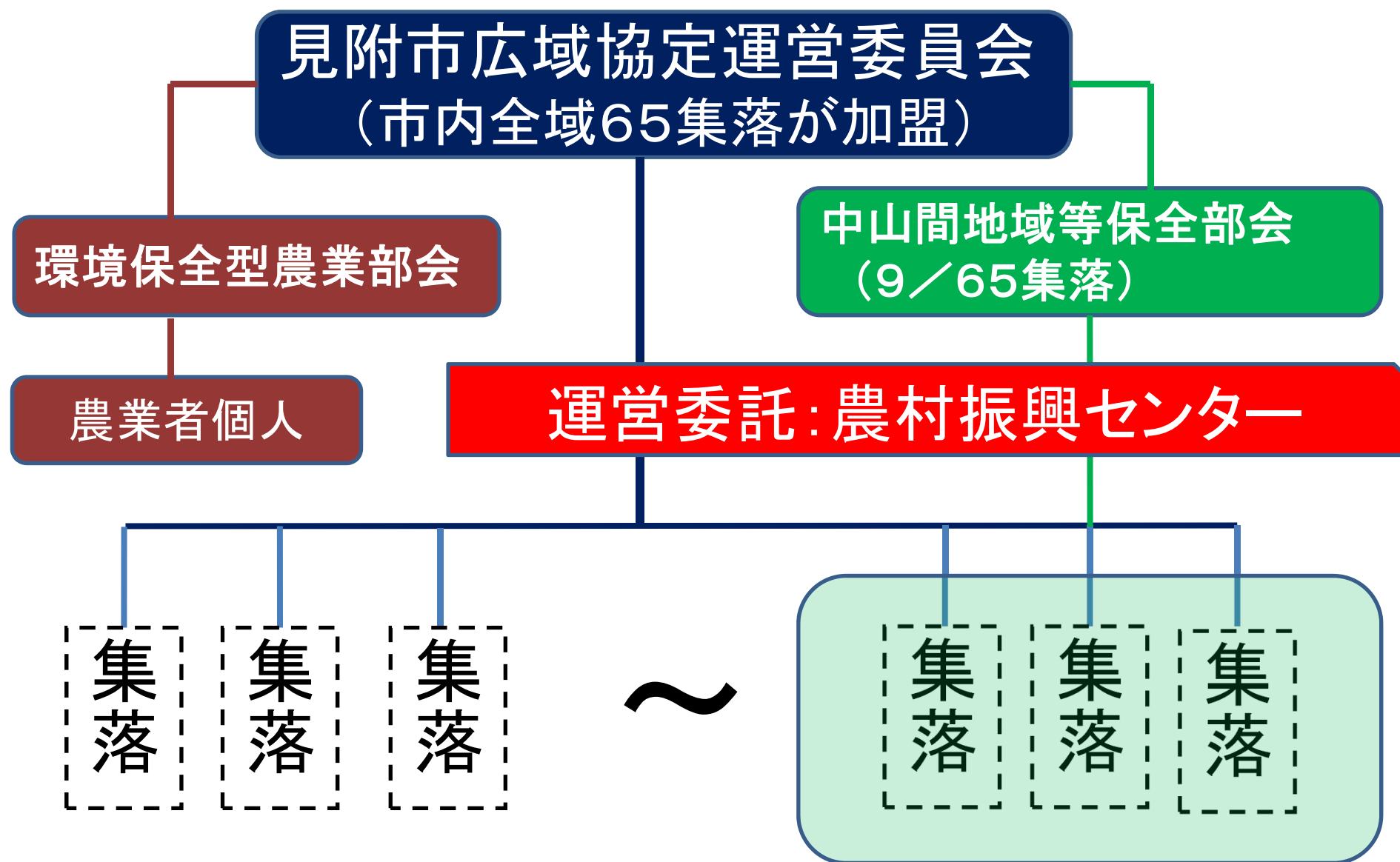
3支払の運営状況

- **多面的機能支払**
協定参加集落65地区の代表者、副代表者4土地改良区、1地域団体の代表135名で運営委員会を構成。運営委員会の運営と各集落の事務・会計を含めて農村振興センターに委託。
- **中山間地域等直接支払**
対象となる集落の代表者と副代表者で見附市広域協定内に中山間部会を構成。別に部会規約を定め、同様に部会の運営、各集落の事務や構成員への交付金の交付を農村振興センターに委託。委託に係る財源は広域加算金を活用。令和2年度からは広域加算金の交付を受けられなくなるため、新たな加算メニューにも取り組む予定。
- **環境保全型農業直接支払**
交付金事業に取り組む農業者で部会を構成。本支払は、多面的、中山間直払ほどの事務量が無い事と、取組の規模が小さく委託の財源を確保できないことから、見附市のサポートを受けて別に規約を定め部会が自ら運営。

3支払の連携による相乗効果

- 見附市広域協定の多面的機能支払から見た場合、中山間直払、環境保全型直払と連携することでの効果は効果は特にないが、中山間地域直接支払から見ると、当該集落にあっては、対策に必要な集落の保全管理活動を多面的の組織が担うことで、交付金の大部分を耕作者に配分することができる。
- 環境保全型農業直接支払は生産に関する対策であるため、対策的にはそれほど効果はないが、見附市広域協定の各種会議においてPRを行うことで、効率的・効果的に本支払を市内に波及させていくことができる。
- 3支払いはそれぞれにミシン目がある対策であり、交付金を使った連携はそもそも難しい。個別具体の対策の効果というよりも、農業者が減少している中で、集落は役員の選出や事務をしなければ対策には取組めないことから、同一の団体として効率的に組織を運営することで、助かる集落・農業者が増え、結果的に市全体の3支払のカバー率に繋がっていることが、最も大きな効果である。

見附市日本型直接支払組織図



市民参加による農村保全モデル事業（新潟県）

36

取組のきっかけ

- ・中山間地域の農業農村の多面的機能の発揮と地域住民活動の活性化に資するモデル的な取組のアイデアを市町村から募集。
- ・見附市から、高齢化等により耕作者がいなくなる恐れがある集落（栃窪地区）において、農地を適切に保全しなければ、大雨により土砂崩れなどの災害が起こりかねないとの懸念から、市民参加による農地保全の取組について提案があり、県のモデル事業として実施。

取組の概要

○事業期間：平成29年度～令和元年度

【1年目】

- ・見附市栃窪地区で営農したい市民を募集し、8組12名が応募。（個人参加 6名（20代：2名、40代：3名、60代：1名）グループ参加6名（50代～70代））
- ・ワークショップを開催し、農業の知識習得や農村づくりに関する討論を実施。また、米作りや共同活動の年間計画を作成。

【2～3年目】

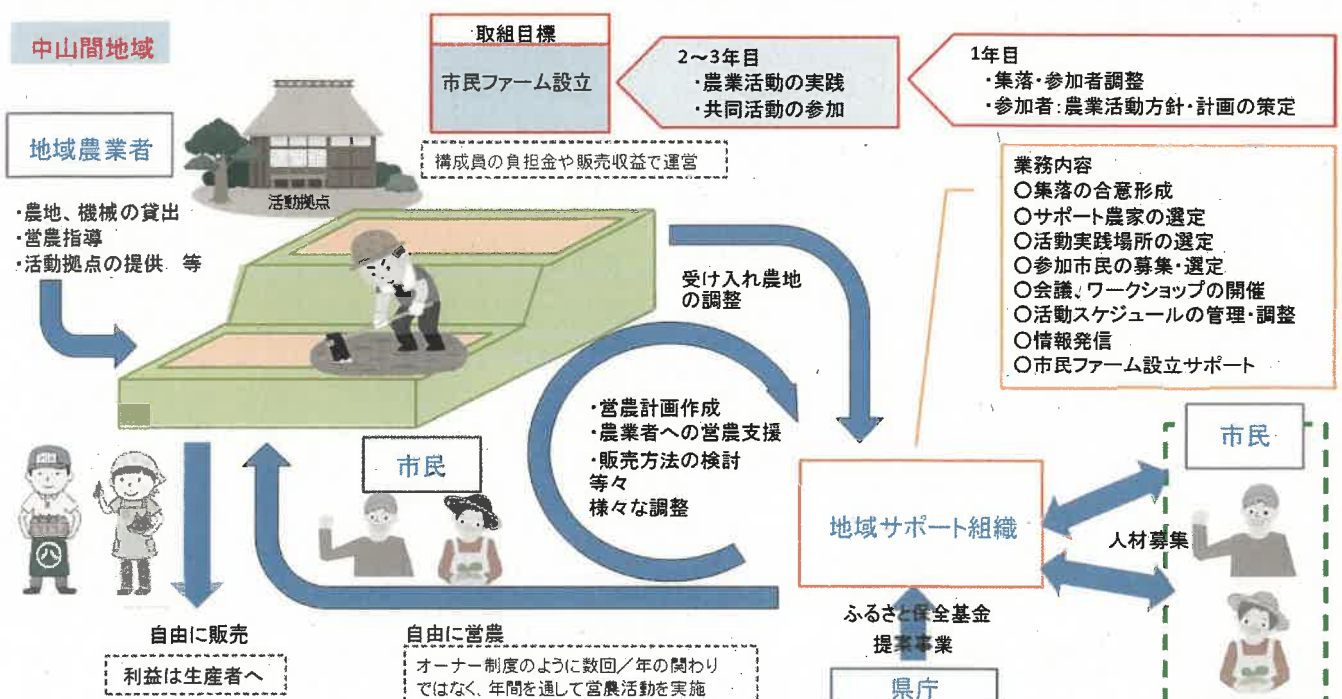
- ・約1ha（うち30aは耕作放棄地）の水田において農業を実践。

【今後の展開】

- ・参加メンバーで市民ファームを立ち上げ、継続的な営農を実施。

取組の特徴

- ・市民の自主的な参加により営農が継続されること、また、将来的には参加者が自立して営農を継続できる体制を整備すること。
- ・地域サポート組織が集落や参加者との調整を行い、県はそのサポート組織に対して支援。



一般市民参加による農村保全 に関する 社会実験事業 ～ 析窪町編

(一社)農村振興センターみつけ
新潟県農地部農村環境課



傾斜地のうえ、田んぼが狭小で
水管理も難しいのが中山間地域³⁸



主婦でも運転はできる。



20代の若者も参加。さすがに体力があるね。



一番楽しかった作業を聞くと、ほぼ全員がコンバインでの稲刈りと回答。



ちよつと大さの明水機
貯水容量 4.0kg



本実験の目的は維持管理をしてもらうこと。